



▲宇都宮信房肖像

7月14日、コマーレで「宇都宮氏と豊臣政権」と題した歴史シンポジウムが開催されました。これは来年の大河ドラマで黒田官兵衛が取り上げられるのを受け、宿敵の宇都宮氏側にスポットを当てて歴史を検証しようと開催されたものです。

当日は、500人の方が参加し、宇都宮氏の歴史や史跡に興味を持ち熱心に専門家の先生の話を傾けました。

豊前宇都宮氏と豊臣政権 歴史シンポジウム



「豊前宇都宮氏と豊臣政権」
歴史シンポジウム開催！



講演「豊臣政権と九州統一」

小和田 哲男 (NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」時代考証・静岡大学名誉教授)

秀吉の九州統一には宇都宮氏も参加したが、統一後に豊前国全体を任せると有力な人物がいなかったため、黒田官兵衛に豊前国の領地を与えた結果、豊前宇都宮一族の一揆が勃発した。結果として一揆は鎮圧されたが、400年間地方を治めた武士団として、中央政権に物申したことは歴史の中で重要な意味をもっていた。



報告「中世宇都宮氏の成立と展開」

市村 高男 (高知大学教授)

宇都宮氏のルーツである下野国の宇都宮氏と豊前の関係について報告を行う。

最後に「歴史を見る目、地域を見る目」として、私たちは結果としての歴史の事実を知っていることで歴史を教科書的に評価しているが、当事はどうなるか分からなかった。進駐軍の黒田勢に地方の反乱は当然であるとも述べられ、地域の主体性をもっと評価すべきで、さらに今も残る宇都宮氏の史跡に誇りをもって地域の宝として残してほしいと結ばれた。



報告「豊前宇都宮氏と黒田氏」

則松 弘明 (豊前宇都宮氏研究者)

当時の豊前各地域には数多くの国人、土豪がいてそれぞれの地域を治めていた。それを豊臣政権の黒田氏が入ってきて、他国への転封や武士から農身分への変更を言われても、「はい、わかりました。」と受け入れるわけにはいかない。しかし、宇都宮一族も全体が団結していたわけではなく、それぞれ別々に反乱を起こした。宇都宮氏当主の城井鎮房も一族全体を束ねられる器量はなかったと結論づけた。

(則松先生は築上町安武の出身で豊前宇都宮氏研究では第一人者として活躍している。)



報告「伊予宇都宮氏について」

土居 聡朋 (愛媛県歴史文化博物館)

宇都宮氏一族は全国に広がっているが、なかでも伊予国の守護としての宇都宮氏の地位は高い。また、伊予国での一族の広がりや戦国時代の豊綱の活躍及び宇都宮神社や寺院を紹介した。



報告「城井谷の城館」

高尾 栄市 (築上町教育委員会生涯学習課)

これまで調査してきた町内の山城や大規模な館跡などを写真や絵図で報告を行った。



▲宇都宮氏館跡 (松丸)

参加された方からは、「なぜ滅ぼされたのか。」との質問が多く、黒田官兵衛は豊前国を統治できなければ、今度は自らの立場が危ぶまれたため切羽詰って、中津城での謀殺という最終手段を取らざるを得なかったというのが大方の見解でした。

これを機会に戦国時代の京築の歴史、築上町の歴史に興味関心を持ってみませんか？